

「ほっと」一息・・・

ほっと

令和元年8月20日、16時22分：激しい雨と雷の後、窓の外南の空に二重の虹が掛かった。目を奪われて、「ほっと」一息つく瞬間でした。ふと7年前に入職した頃に思いを馳せてみると、まだ館林市仲町に有る市民センター分室の信金跡の小さな一部屋にほつとが有った頃で、机を並べて職員同士が室内を移動するのもやっとなところでした。

あの私は入職したばかりで『相談支援』という言葉すら知らない状態でしたので、障害福祉サービスの名称やその内容は出会った相談者さんの求めに応じて調べていくことで覚えてゆきました。1人、また1人と新たな相談者さんと出会うことで、わずかずつですが知識が増えていった実感が有ります。

入職当初はセンター長をはじめ諸先輩方より、基本的なことを始めとして専門的な事までのご教授を頂きました。残念なことに、時間の経過と共に忘れ去ってしまった言葉もあります

が、今でも忘れずに印象深く心に残っている言葉がいくつかあります。その中の1つで『声なき声に耳を傾けて！』という、センター長からの言葉が有ります。相談支援を行う上で、昨今特に重要視されている『意思決定支援』にも繋がる言葉です。実際に表出言語の無い方もたくさんいらっしゃるしやり、言葉があっても感情表現がうまくできない方もいらっしゃいます。長い人生の内では何度か大きな選択を迫られる時が有りますが、その大事な選択を自分以外の誰かによって決められてしまったり、その結果が望まぬものになってしまった時に、人は消化しきれない思いを残してずっと持ち続けて行ったりします。その状況は相談者さんにとっても苦し

い事です。或る選択肢の1つを選んだ場合に、それによって起こり得ると想定できるメリットとデメリット、又その選択肢を選ばなかった場合のメリットとデメリットを言葉や文字や絵等、その方にとってより伝わりやすいと思われる方法で伝えて、何を選ぶかを一緒に考えてゆきます。相談者さんが答えとして返してくれる言葉や表情・身体の反応等も見ながら、どんな意思を表現したいのかを『声なき声に耳を傾けて』感じ取る努力を続けています。多くの方の意思決定を支援するとうことは、多くの方々の人生の決断の場に立ち会わせて頂くことにもなり、併せてその決断の際の不安や寂しい想いにも立ち会い、寄り添ってゆくということにな

ります。本人が選んだ次のステージに向かつていく姿を見れば、その時は最善の選択と思っても、本当にこれで良かったのだろうかと思ってしまう。

昨年度は、ほっと全体で約720名の方の相談に対応させて頂きました。令和という新しい時代を迎えた今年度は、常勤する職員11名と療育相談員1名の計12名で、相談支援事業にあたらせて頂いています。これからも相談者さんの想いにそっと寄り添いながら、それぞれの方の相談を伺って、意志の決定を支援していきたいと思っております。

相談支援専門員

勤続7年 長沢葉子

